

# 下流部会資料

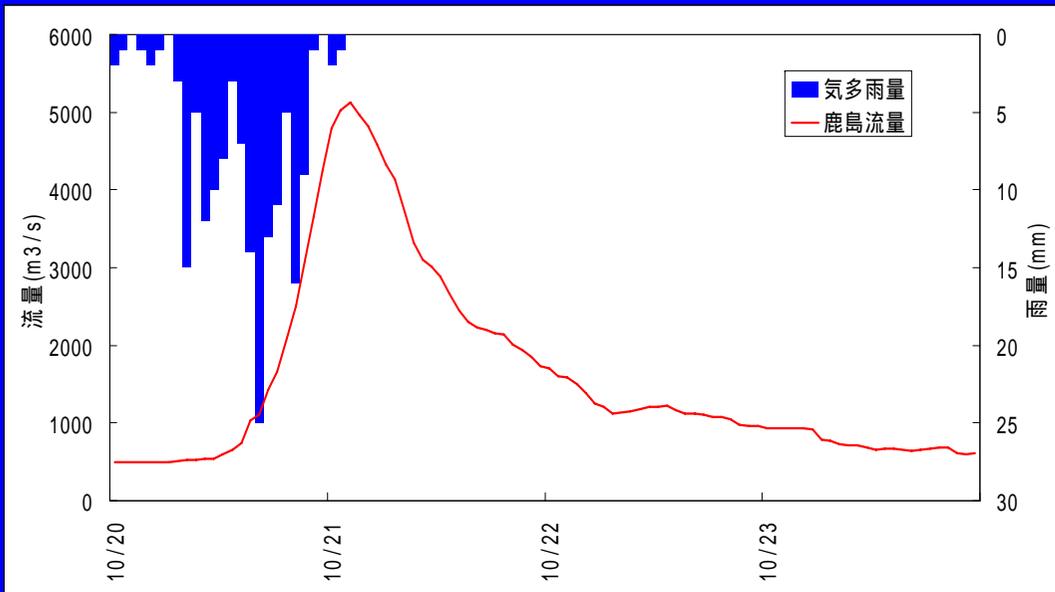
## 天竜川中下流部の最近の状況

1. 洪水
2. 整備事業等
3. 渇水

# 1. 洪水

## 平成16年10月出水

気多地点の降水量と鹿島地点流量(H16.10)



鹿島地点における出水状況  
H16.10.21撮影

### 全国的被害を報じる記事



\* 写真は由良川における人命救助の様子

静岡県内の被害を報じる記事



\* 写真は静岡市内の台風による被害の状況

# 天竜川における被害

被災前(左)H10.8と被災後(右)H16.11  
掛塚被災状況3.6km付近



平成16年3月撮影



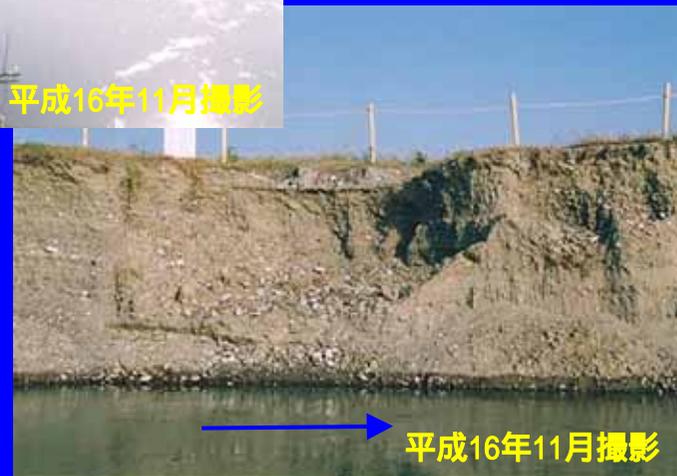
平成16年11月撮影

70m



平成16年11月撮影

侵食の状況



平成16年11月撮影



平成16年11月撮影

# 被災前(左)H10.8と被災後(右)H16.11 豊西被災状況12.6km付近



浜松市豊西地先(右岸12.6k付近)上流を望む



10月21日(台風23号による)出水状況写真  
右岸12.6k付近より下流を望む

# 災害復旧の状況

掛塚付近 (3.6km)



豊西付近 (12.6km)





## 2.整備事業等

### 水辺の楽校いわた



天竜川の流れの方向

基盤整備完了後全景

### 階段部分



天竜川の流れの方向

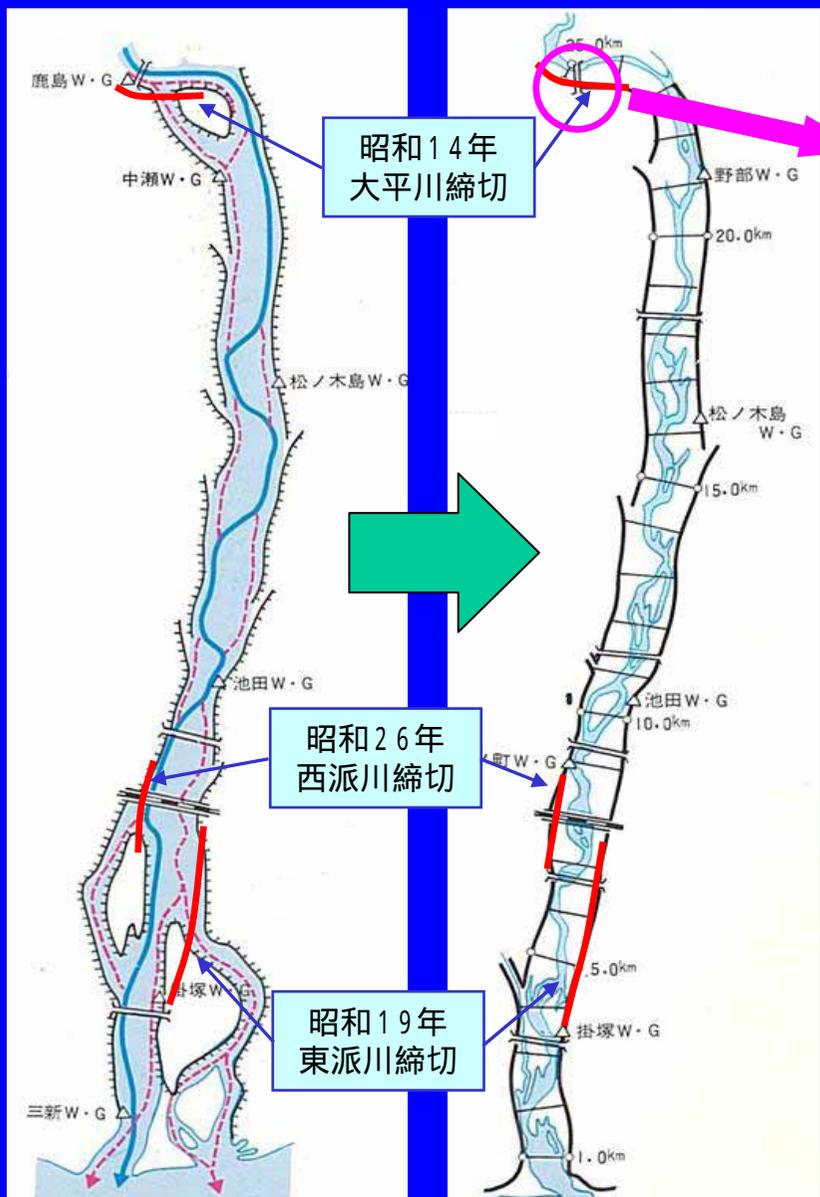
\* 既設護岸にも階段を設置

### 水辺の楽校完成イメージ



# 西鹿島堤防護岸の整備

【目的1:治水】頑丈な堤防で洪水を防ぐ



【昭和8年頃】

【現在】



治水事業は奈良時代にさかのぼり、「天宝堤」や「彦助堤」などにその面影が残る。昭和13年の上島・中瀬地先の破堤による大災害を受け、大平川を締切るとともに、下流部の東・西派川を昭和26年までに締切、現在の天竜川が形成された。

西鹿島地区は、天竜川が「S」字型に湾曲しており、洪水時には水衝部となることから、本事業により堤防を緩傾斜に改築し、堤防を頑丈なものとして、洪水から人家を守るものである。

【目的2:利用】高水敷を多目的広場等に利用

完成イメージパース



緩傾斜堤

高水敷をスポーツ公園として利用

低水護岸



中学生による河川美化運動



花火大会時の高水敷利用状況



天竜の川面を染める「鹿島の花火」

西鹿島は120年余の歴史を有す「鹿島の花火」の開催地として親しまれ、河川堤防は栈敷として利用されている。

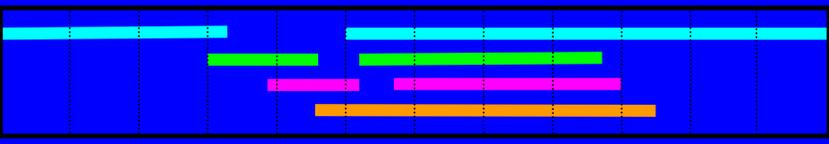
花火大会前には地域住民や県・市が除草や清掃活動を行うなど、河川愛護も盛んである。

市町村合併に伴い、河川空間を活用した運動公園計画が立案されるなど、河川環境整備に対する期待は非常に高い。



堤防を緩傾斜に改築し、水際に近付きやすい低水護岸を施工することで、河川空間の利用推進を図る。

【目的3:環境】河川の多様な生態系の保全

名称	【目】チョウ 【科】シジミチョウ 【種】ミヤマシジミ
指定状況	環境省のレッドリスト : 絶滅危惧 類(VU) 静岡県のレッドデータブック : 準絶滅危惧 (NT)
分布	本州のみに分布し、分布の中心は関東～中部地方の本州中部。 静岡県内では、富士山麓、天竜川、大井川、安倍川、興津川、富士川。
生態	開張約26～28mm、500円玉より一回り小さい小型のチョウ  <p>オスの表面    オスの裏面    メスの裏面    メスの表面</p> <p>静岡県では5月中旬から11月上旬にかけて、年5回程度の発生を繰り返す。卵はコマツナギに行われ、幼虫も同植物を食す。卵から成虫に至るまではほぼ1ヶ月を要する。</p>  <p>卵    幼虫    蛹(さなぎ)</p>
周年経過	ミヤマシジミの卵、幼虫、蛹、成虫の成長ステージ別の周年経過  <p>1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月</p> <p>■ :卵(7日)   ■ :幼虫(30日)   ■ :蛹(10日)   ■ :成虫(15日)</p>

天竜川には、良好な自然環境が残り、環境省および静岡県指定の貴重種「ミヤマシジミ」の生息が確認されている。

本事業箇所の西鹿島地区は静岡県内でも代表的な生息地にあたり、河川工事による環境への影響を最小限に抑える工夫が必要となっている。



対策にあたり、貴重種である「ミヤマシジミ」の生態を理解することが重要である。

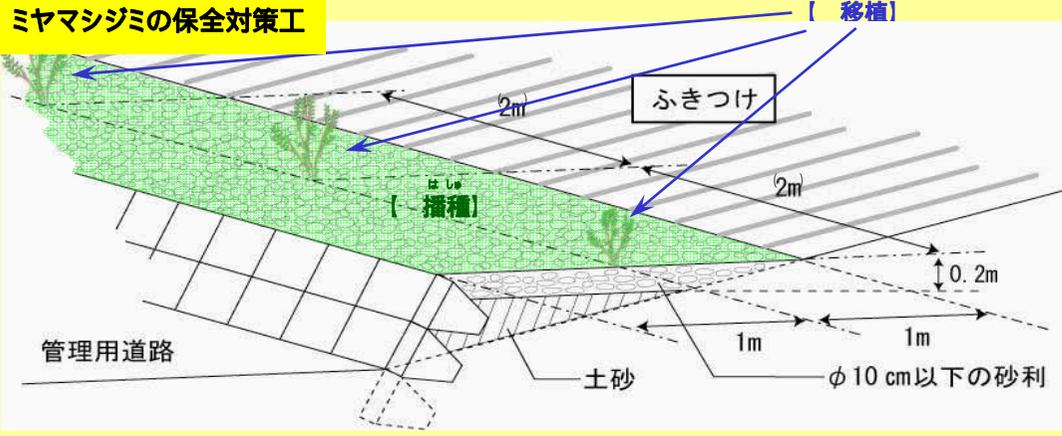
**【環境保全対策】環境を保全するための取り組み**

**生物環境調査(ミヤマシジミ、コマツナギ)**



ミヤマシジミとその食草であるコマツナギの分布調査を実施し、それらの関連性が非常に高かった。そこで、ミヤマシジミの生息環境を保全・造成するためには、コマツナギを保全・育成することが重要であることがわかった。

**ミヤマシジミの保全対策工**



**チョウや植物の専門家による懇談会で保全対策を検討**



第3回懇談会(平成17年12月6日開催)

ミヤマシジミの保全対策			
種別	項目	目的	実施時期
保全	保護区域の設定	土砂掘削など工事用車両による踏荒らしを抑制する	H17.9.27実施
	保護看板の設置	ミヤマシジミとコマツナギの保全をPRする	H18年3月末
造成	種子採取	11~12月に種を採取する	H17.12.12実施
	播種	工事完成後に種をまく	H18年3月末
	(育苗)	(ポット等で1年程度育てる)	(H18年3月末~)
	移植	コマツナギを他から移す	H18年3月末

**保全区域の設定(H17.9.27)**

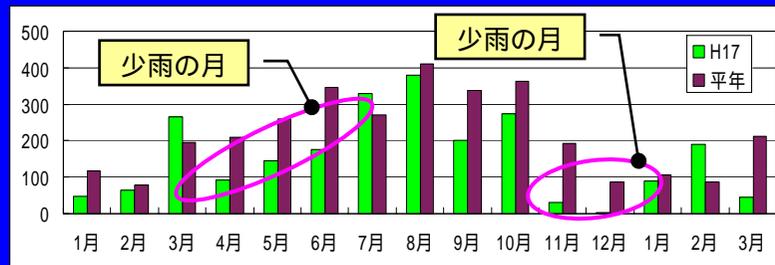


保護看板の例



住民らによる種子採取(H17.12.12)

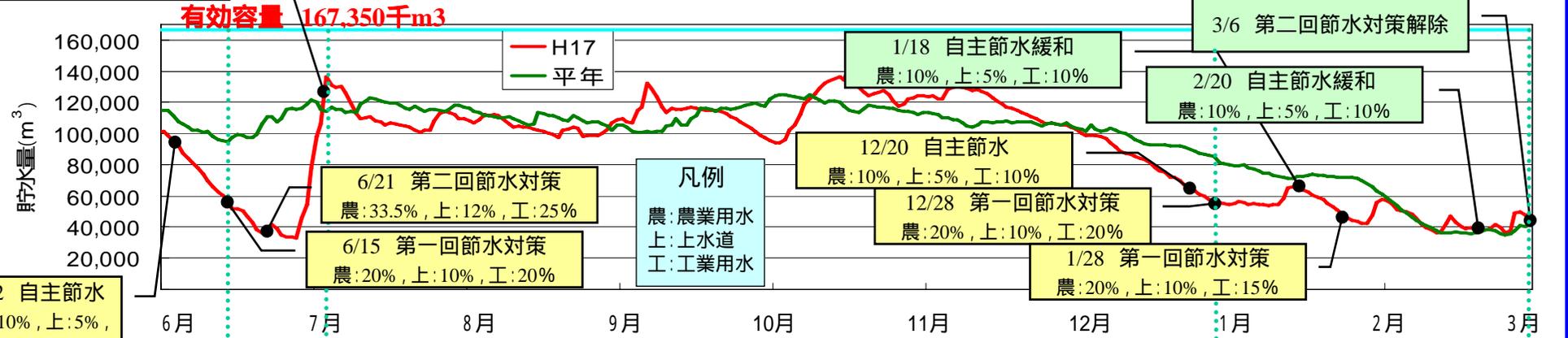
# 3. 渇水 渇水の状況



鹿島地点の渇水の様子 (H17.6.22.9:00撮影)

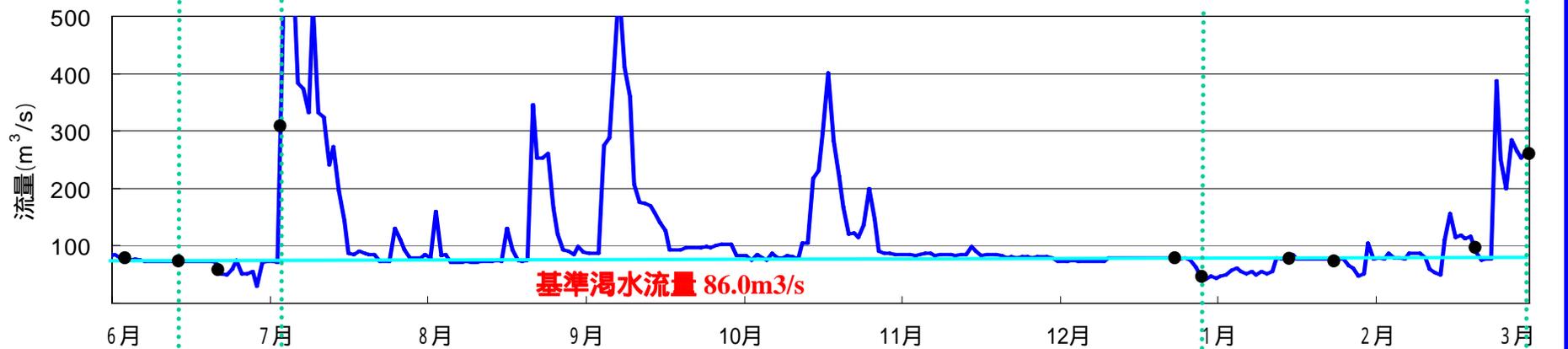
7/4 第二回節水対策解除  
農:10%, 上:5%, 工:10%

気田雨量(日雨量)



6/2 自主節水  
農:10%, 上:5%,  
工:10%

佐久間ダム貯水量



鹿島地点流量

6月15~7月4日

12月28~3月6日

… 浜松河川国道事務所渇水対策支部設置期間

\* 上記データはすべて速報値

